



情報化促進貢献者等の表彰

2002年
情報化月間

情報化促進貢献情報処理システム表彰

■ 情報化月間推進会議議長表彰

システムの名称

表彰理由

eznavigation

(ケイディーディーアイ株式会社)

他社では提供できない精度の高い位置情報を提供し、その位置情報と親和性の高いアプリケーションを組み合わせたシステムであり、利用者の利便性を格段に向上し、モバイル通信の発展に多大な貢献をした。

意味情報ネットワークSIONetによる病診連携支援システム

(日本電信電話株式会社)

複数の医療用データベースの相互連携を図り、広範な医療機関・医師情報の検索を可能とした経済的で高信頼な分散型医療データベースを実現し、病院・診療所連携を支援することにより、地域医療の質の向上に多大な貢献をした。

衛星イントラネットシステム

(富士ソフトABC株式会社IT事業本部)

衛星ルータを利用し、本格的に衛星をイントラネットとして利用した日本最初のシステム構築事例。短期間で全国350拠点に対して導入し、ユニキャストで2.5Mbpsのアクセス速度を確保。低コストかつ多地点で広帯域のデータ通信を行う手法として評価できる。

abnet(エービーネット)

(エービーネット株式会社)

中小工務店向けに住宅の設計、見積もり、建築確認申請書類等の機能をインターネットを通じて提供する独自システム。設計専任の担当者を置くことが困難な中小工務店が、短期間かつ安価に顧客に対して住宅プランを提案できる。

確定拠出年金共同システム

(日本レコードキーピングシステム株式会社)

日本で前例のない純新規業務の開発で、法案成立により業務可能となる業務運営を全面的にサポートするシステムを開発。法案成立の度重なる順延による案件の追加変更が繰り返される中、予定期日に無事サービスを開始。確定拠出年金の運営を共同代行する会社のシステムであり、11社による共同開発。このため、投資の大幅抑制と、ノウハウ共有によるサービスレベルの向上に大きな効果を発揮した。

学校情報ネットワーク

(株式会社ジャストシステム)

ナレッジマネジメントシステム「ConceptBase」による「学校情報ネットワーク」は、インターネットに接続された全大阪府立高校の端末からの情報取得を容易にし、各学校、各先生方が持つ情報を有効に活用するシステムであり、学校における情報化の促進に貢献した。

局地的気象監視システム

(気象庁観測部観測課高層気象観測室)

気象庁が開発した局地的気象監視システム(WINDAS)は、高層風の実況監視を行い、天気予報の基礎資料ならびに各地気象台での予報業務に活用することを目的として、電波を上空に向けて発射し、大気から反射された電波を受信・解析処理して、上空の風の状況を測定するシステムである。同システムの整備によって、全国25箇所で10分間の空間的・時間的な密度の高い高層風データが得られるようになり、数値予報による集中豪雨や台風等の気象現象の予測精度が向上し、警報・注意報をよりの確に発表する環境が整った。

港湾EDIシステム

(財団法人港湾空間高度化環境研究センター)

財団法人港湾空間高度化環境研究センターが開発したEDIシステムは、従前別々の窓口に出していた船舶入出港に係る港湾管理者・港長への複数の手続きをインターネットを利用して1回の手続き(ワンストップサービス)で可能とし、今後の官民を含めたワンストップサービスの推進に大きな役割を果たすものである。同システムは平成11年の稼働以来、順次取扱手続きを増やしてきたが、今般、港長関係手続の100%に対象を拡大するとともに、利用者の利便性の一層の向上を図るため、本年1月から、財務省の通関情報システムと接続し、これらによって実質的にも港湾諸手続を処理するシステムとして、本格的な稼働を開始した。

CRD(中小企業信用リスク情報データベース)システム

(CRD運営協議会)

中小企業に対する金融を円滑にすることを主眼に構築された、我が国で初めての中小企業に関する大規模データベース。間接金融が中心の中小企業金融の世界にあって、物的担保ではなく、企業の財務データから読みとれる信用リスクを基準に企業を評価して、中小企業への円滑な資金供給を促すもので、CRDが「中小企業の資金調達スキーム」を支援する金融インフラとしての期待は大きい。

次期WEBオンラインシステム

(ニッセイ同和損害保険株式会社)

J2EE(JSP, Servlet)、広域LANという先進のITを有効に活用しつつ、金融機関として絶対性を要求される根幹業務部分では、既存ホストシステムの業務プログラムを再利用する方式を採用し、業務の信頼性を確保したシステムの構築を短期間で安価に実現。また、本システムは、365日24時間稼働を実現できる画期的なものであり、損害保険業界における情報化促進の先導的役割を果たしている。

自動車船検数システム

(社団法人日本貨物検数協会)

社団法人日本貨物検数協会が開発した自動車船検数システムは、自動車専用船に係る検数業務について、従来検数員が手書きで作成していたものをモバイルパソコンへの入力に切り替え、船積み終了後、必要書類・帳票を、本船内に持ち込んだパソコン上で自動作成できるようにした画期的なものである。同システムの導入により、誤積み防止、書類作成の省力化、迅速化が図られ、併せて船社、荷主等への電子データの提供による業務内容の拡大などの効果が期待されるものである。

3Dインテリアデザイナー「Web3Dショールーム」

(メガソフト株式会社)

Webブラウザ上で3Dによるインテリア空間の展示が行える。3Dインテリアデザイナーで作ったWeb3Dデータを登録し、インターネット上で公開することが可能。独自のダイナミックラジオンティ技術で、Webブラウザ上に本物のような美しい3Dインテリア空間を実現。

地球シミュレータ

(海洋科学技術センター横浜研究所
地球シミュレーションセンター)

計算機上で仮想地球を実現し、地球規模で起こる気候、気象、環境、地殻変動を数値シミュレーションにより高精度で予測するため、宇宙開発事業団、日本原子力研究所、海洋科学技術センターがNECへ設計・製作を委託した世界最大の超高速並列計算機システム。地球温暖化やエルニーニョ現象等の現象解明・予測等地球科学に飛躍的進歩をもたらすと

期待される。大気大循環モデル・シミュレーション用の実アプリケーションの実行に成功し、26.6TFLOPSを記録。

被災者支援安否情報登録検索システム
(独立行政法人通信総合研究所非常時通信グループ、WIDE Project ライフライン・ワーキンググループ)

インターネットの持つ災害に強い通信特性等を生かし、災害時における被災者の大量の安否情報を効率的に処理するシステムであり、有珠山・三宅島噴火、米国同時多発テロ時においても活用されるなど、被災者の安否情報の登録や検索を可能にし、非常時通信の発展・普及に多大な貢献をした。

Biz/Browser ver.3.0
(アクセスソフトウェア株式会社)

従来のHTMLブラウザやWeb技術では実現困難であった業務システム構築時に必要となる「画面の高速表示」、「高操作性」を提供し、インターネットでの業務システム構築を容易にする技術を開発。これに基づいて、Webシステムを最大限に活用し、今後のWebサービスに対応するための製品としても期待できる。

[情報化促進貢献個人表彰](#) | [情報化促進貢献企業等表彰](#) | [情報化促進貢献情報処理システム表彰](#)